

市街地火災シミュレーションプログラム

更新情報（Version1.06）

平成18年 6月

国土交通省国土技術政策総合研究所

本書利用上の注意

本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

Version 1.06 公開年月：2006年6月

- ・区画生成時ツールにおいて、複雑な建物データを分割する際に、誤って壁面が交差するような区画を生成するエラーを修正。
- ・開口部の条件により出火しても火炎噴出に至らない火災となる区画が出火した際、この区画に隣接区画が存在するとその直後に隣接区画が出火するエラーを修正。
- ・着火判定点の位置を計算する際及び着火判定点から見通すことが可能な火炎を計算する際に、周囲の区画を検索する範囲をユーザーが設定可能となるよう、条件設定ファイルのSTEP1 セクションに以下の2項目を追加。

(ただし、検索範囲を広く取ると精度の向上が見込める場合があるが、計算時間及びメモリ使用量が増大する。)

①火炎検索範囲 1 [m] 項目名：housyaDist1

周囲の状況に応じて着火判定点の位置を計算する際に、根拠とする火源の元となる区画を検索する範囲。

②火炎検索範囲 2 [m] 項目名：housyaDist2

着火判定点において、受熱流束を計算する火源の元となる区画を検索する範囲。

条件設定ファイルフォーマット (追加分)

| 項目名 | 型 | デフォルト値 | 範囲 |
|-------------|-----|--------|--------|
| [STEP1] | | | |
| housyaDist1 | 整数型 | 20 | >=0[m] |
| housyaDist2 | 整数型 | 40 | >=0[m] |

※設定を行わなかった項目に対しては「デフォルト値」欄の値が設定されます。

- ・壁面の近傍 (housyaDist1 以内) に他の区画が存在しない場合に、遠方の火源の影響を評価するため、壁面中央に近い着火可能領域内に着火判定点を設置するよう修正。
- ・その他、計算効率の向上、メモリ使用量の削減のための修正。

Version 1.05 公開年月：2005年12月

- ・公開開始。

以上